

□ 新規調査（上記1- ）

新規調査の結果のうち、新築1年以内であった住宅を対象に集計すると、以下のとおり。

化学物質別の平均濃度など

		12年度冬期	13年度夏期
ホルムアルデヒド 指針値 = 0.08ppm	平均濃度	2,815戸の平均 0.073ppm	1,726戸の平均 0.050ppm 31%
	超過住宅の割合	809戸 / 2,815戸 28.7%	230戸 / 1,726戸 13.3%
トルエン 指針値 = 0.07ppm	平均濃度	2,816戸の平均 0.041ppm	1,680戸の平均 0.023ppm 44%
	超過住宅の割合	384戸 / 2,816戸 13.6%	107戸 / 1,680戸 6.4%
キシレン 指針値 = 0.20ppm	平均濃度	2,816戸の平均 0.006ppm	1,680戸の平均 0.009ppm 50%
	超過住宅の割合	5戸 / 2,816戸 0.2%	5戸 / 1,680戸 0.3%
イソバネン 指針値 = 0.88ppm	平均濃度	2,816戸の平均 0.010ppm	1,680戸の平均 0.005ppm 47%
	超過住宅の割合	0戸 / 2,816戸 なし	0戸 / 1,680戸 なし
スチレン 指針値 = 0.05ppm	平均濃度	実施せず	1,680戸の平均 0.002ppm
	超過住宅の割合	実施せず	18戸 / 1,680戸 1.1%

上記戸数は、各化学物質について、有効なデータが得られた住宅の戸数

- ・平成12年度から13年度までの間に平均濃度はほぼ低減する傾向がみられたが、これはシックハウス問題に配慮した建材等の選択が一層普及したことによるもの等と考えられる。

住宅の属性別のホルムアルデヒド平均濃度

- ・住宅の建て方別に見ると、いずれも平成 12 年度に比して低減した。平成 12 年度では「一戸建て」と「共同建て」がほぼ同濃度(0.073ppm、0.072ppm)であったが、平成 13 年度では「一戸建て」(0.051ppm)が「共同建て」(0.046ppm)よりやや高い傾向が見られた。
- ・住宅の構造別、種類別に見ると、個々に差はあるものの、いずれも平成 12 年度に比して低減した。特に、「公共賃貸住宅」は、平成 12 年度に比して大きく低減した(低減率 42%)。
- ・測定室の階数別に見ると、「一戸建て」では、平成 12 年度と同様に、上階が下階より高い傾向が見られた。平成 12 年度の「共同住宅」では上階ほど高い傾向がみられたが、平成 13 年度では階数による明確な傾向は見られなかった。
- ・また、昨年同様、窓開放など各種換気を十分に実施すると濃度が低くなる傾向が見られた。